

埼玉県地域医療構想 今後の方向性 取組実績一覧

南西部医療圏

(1) 医療機能の分化・連携及び病床の整備			
	今後の方向性	取組の内容・実績	来年度の取組
1	・ 高度急性期病床については、他区域との連携も視野に入れて整備していく必要がある。	脳卒中、心筋梗塞、頭部損傷など生命にかかわる重篤な患者に対して高度な救急医療を提供する第三次救急医療機関として、令和3年5月に独立行政法人国立病院機構埼玉病院を救命救急センターに指定した。	引き続き、協議会で協議。
2	・ 大規模な病院では同一の病院内に複数の機能を持つ必要がある。	2～3 取組なし。	
3	・ 放射線治療や心臓血管手術などが行える病院は、区域内に複数ある必要はないため、今後医療機器の整備状況などを踏まえて役割を整理すべきである。		

(2) 在宅医療等の体制整備			
	今後の方向性	取組の内容・実績	来年度の取組
1	・ 深夜の看取りについて、直ちに確認して欲しいと考える住民が多い一方で、実際には翌朝の対応で問題がないケースも多くあることから、住民に対する看取りについての啓発が必要である。	各市町ではパンフレット、広報誌、エンディングノートの作成等により啓発を進めている。	引き続き、関係機関と連携を強化する。
2	・ 訪問リハビリテーション、訪問看護を充実していく必要がある。	新型コロナウイルス感染拡大の中、朝霞地区医師会及び東入間医師会ではWEBによる多職種連携の研修会が開催され、関係団体も参加し、医療介護の人材育成を図った。	
3	・ 在宅医療を支えるための医師や看護師等の医療従事者の早急な確保が急務である。		